

ケニアから アフリカ全土へ広がる SHEPアプローチ

ケニアから世界へ 高く評価されるSHEPアプローチ

SHEPは、第5回アフリカ開発会議において『食べるため』から『稼ぐため』の農業、「市場に行き何が売れ筋か農家自身が確かめ、付加価値の高い園芸品を効率よく作る方法」と高く評価されました。JICAはケニアでの成功を受けて、アフリカ農業支援の柱の一つとして、このSHEPアプローチをアフリカ各国に広げようとしています。その出発点として、日本とケニアで市場志向型農業の研修を実施しています。研修をスタートラインとして、アフリカ各国から参加した行政官が、作成したアクションプラン（行動計画）を自国で実践することでSHEPアプローチが広がっています。

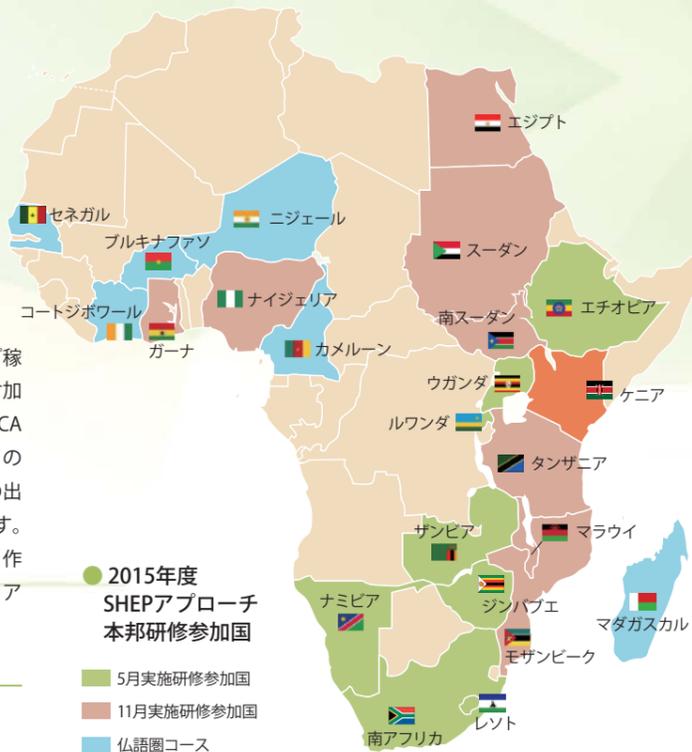
【日本で】「ビジネスとしての農業」に触れる

生産者と消費者の間をつないでいる自治体・市場・農協・小売業者の役割を学びます。また、日本の「考える」農家の姿、「考える」農業の在り方を学びます。



【ケニアで】「考える農業」を体験する

農家グループが、自発的にSHEPの活動を行う姿を見て、「売するために作る」ことを考えるのは、JICAや現地行政官ではなく、育てた作物を市場に出荷し、その売り上げで生計を立てる農家グループ自身であることを実感します。



エチオピア

農家グループによる“売するための農業”の実践

農家参加型の市場調査を通じて、農家グループはニンニクの需要が高いことに気づき、これを新作物として栽培することにしました。また、お見合いフォーラムで出会った業者からニンニク種子を共同購入することで、投入コストが下がりました。その結果、大幅に所得を向上することができました。

マラウイ

農業支援プログラムへのSHEPアプローチの取り組み

研修に参加した行政官は、多くのドナーが支援する農業セクターワイドアプローチの枠組みを活用して、SHEPアプローチ実践のための予算を確保しました。現場では、普及員がマーケティングについても指導するようになり、需要のピーク時に出荷することで、通常の3倍の価格で販売することができました。その結果、屋根を補修するなど、生活の質が改善した農家も出てきています。

ルワンダ

農民間普及手法を活用して、SHEPアプローチを実施

農家グループの代表がSHEPアプローチの研修に参加した後、農民間普及手法を活用して、さらに多くの農家にSHEPアプローチが広がり始めています。多くの農家がお見合いフォーラムを通じて買い付け業者とのビジネスリンクが深まり、生産量の増加や所得の向上に繋がっています。

写真：JICA

—— ジャパンブランド ——

市場を目指して 小規模農家が変わる

SHEP



ケニアの農業は国家経済の基盤。市場に出回る農産物の7割以上を小規模農家が栽培しています。

つまり、小規模農家が農業で稼ぐことが農業振興のために重要となっています。

ビジネスとしての農業による所得向上を目指しながら、

農家ひとりひとりの「やる気」を引き出し、自助努力によるさらなる成長を推進する。

これがケニアとの技術協力から生まれた日本のユニークな国際協力のカタチ。

「小規模園芸農民組織強化計画プロジェクト（SHEP）」から生まれたSHEPアプローチです。

今、このSHEPアプローチがアフリカ全土へと広がっています。



日本発、また国際協力の現場で培われた、ユニークなノウハウ・経験・技術が、多くの開発途上国の現場で役立っています。これらの問題解決に有効な手法や事業モデルを国際協力における「ジャパンブランド」として世界に向けて発信し、活用を促進しています。



※SDGsの17の目標のうち、関連のあるものを表しています。

売るために作る農業×農家のやる気＝アフリカの成長SHEPアプローチ

アフリカの成長の主役は農家さん

アフリカにおいて農業は国民への食料の供給だけでなく、国の経済を支える重要な産業。その一方でアフリカに根強く残る貧困の問題は特に農村において著しいのが現状で、統計的に「貧困層」と呼ばれる1日2ドル以下での生活を余儀なくされる人口の7割以上が、小規模に家族で農業を営む人々であるとされます。つまり、アフリカの農家の所得向上を進めることによって、人々の貧困は減り、同時に国の経済は成長す

ると考えられます。

また、農業は世帯内の男女の役割分担と共同作業によって成り立っています。このため、「所得向上」という目標を共有し、これを目指して男女が協力し合うことは農家が自発的に成長し続けるための必要条件となるでしょう。

「作ってから売る」から「売るために作る」農業への転換

近年、アフリカのほとんどの国が「食べるための農業だけでなく、ビジネスとしての農業も推進する」という国家開発のスローガンを掲げています。ケニアでも、ビジネスとしての農業の推進を目指しており、JICAは2006年からケニアにおいて3年間の技術協力プロジェクト「小規模園芸農家組織強化計画（Smallholder Horticulture Empowerment Project. 略してSHEP）」を支援しました。

SHEPアプローチは、このプロジェクトに始まり現在まで続く協力の過程から生み出されたものです。



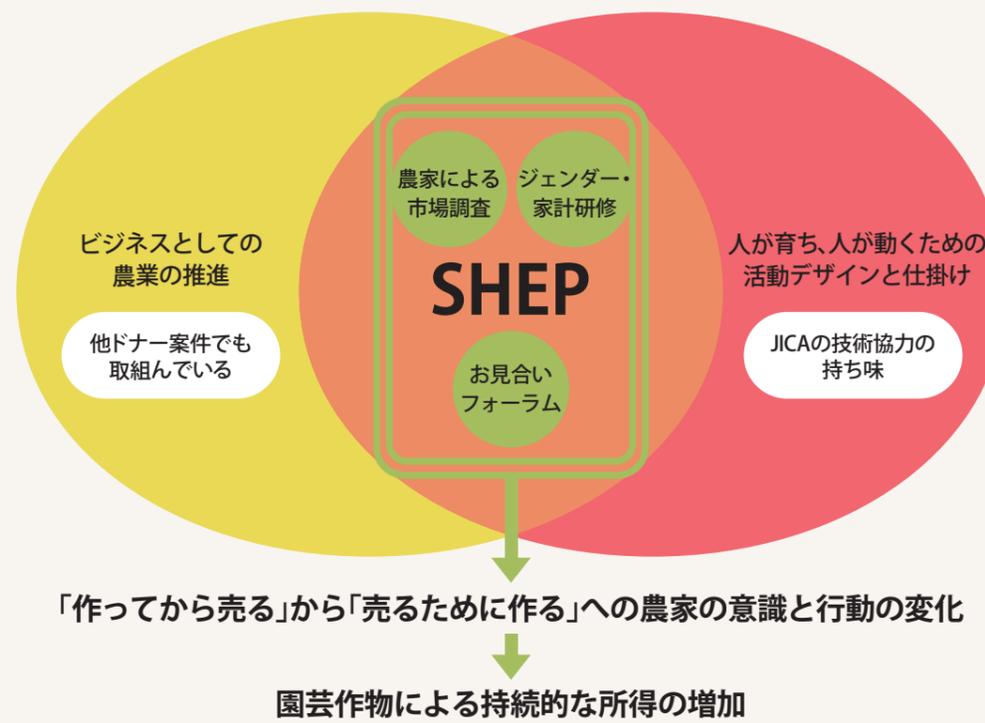
経済学の理論から考えた「売るために作る農業」とは？

経済学に「情報の非対称性」という理論があります。生産者から消費者に至る市場流通のアクターそれぞれが持っている情報をお互い知ること、つまり情報の非対称性を緩和することによって商取引が効率的になされるようになります。これを農産物の流通にあてはめると、生産者が持っている生産物に関する情報と、その買い手となるアクターのニーズに関する情報、つまり「誰が」、「どんな種類の作物を」、「どんな品質で」、「いつ」、「どのくらい」、「いくらで」売りたいか、もしくは買いたいかをマッチングさせることで、取引が成立することになります。また、農家の立場から言えば、買い手となるアクターのニーズを事前に知ることができれば、自分が生産者としてできることと比較検討しながら、より儲けを生み出す栽培計画を立てることができるのです。

● 農家と市場アクターの情報交換が「売るために作る農業」の第一歩



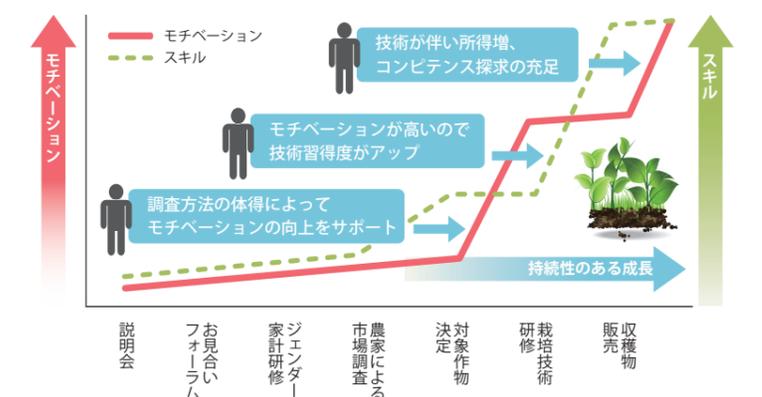
SHEPのコンセプト：経済学と心理学のハイブリッド



心理学の理論から考えた「農家のやる気」を出すデザインとは？

心理学に「自己決定理論」という裏付けされた考え方があります。人間には生来持っている三つの心理学的欲求(自律性、有能感、関係性)があり、誰かから与えられた報酬よりも、自律性や有能感など自分自身の心、つまり内から発せられるものによってこそ、モチベーションを高めて自ら行動を起こしていくという理論です。SHEPでは、活動を行う時に、この3つの欲求に注意を払い、農家が自発的に考えて課題に取り組むように仕向けたり、その結果得られる達成感や「自分でも出来るのだ」という有能感を積み重ねていく過程を大事にしたり、農民組織内でのつながりやプロジェクト関係者との関わりの関係を大切にしたり、といった活動のプロセスを重視しています。その結果、一人ひとりの中で、押し付けではない内発的な動機が生まれ、やる気が引き出されてくるのです。

● モチベーションとスキルの相関図



農家による市場調査

農家自らが市場に出掛け、農家の視点で創意工夫をしながら情報を収集することにより、自分たちが興味のある作物・品種について詳細かつ信頼性の高い情報を得ることができます。また、市場価格を知ることによりやる気が高まり、新たなビジネスチャンスを探ることもできます。農家による市場調査は、外部の人間が提供する二次情報を受動的に受けるよりも大きなインパクトを与え、農業の活性化にもつながります。



SHEPアプローチでは農家自ら市場に出かけ直接アクターと対話する

市場調査へは3人で行きましたが、それぞれの得意分野、アイディアを生かし、売り子や買い物客、業者など複数の情報源からの情報を収集し見定め、どれが信頼性の高い情報を得ることができました。(ケムル 女性農家)



お見合いフォーラム

SHEPでは、農民組織と園芸産業関係者が会する「ビジネスとしての農業」の知識とネットワークを拡大するため、お見合いフォーラムという農家と業者の出会いの場を設定しています。お見合いフォーラムは、農家と業者の情報交換によるビジネスリンク構築という明確な目的の下、参加者を厳選し、またお互いの情報は事前に交換しておくことで、農家が園芸農業のポテンシャルを具体的に見極め、業者との関係構築が容易になることを目指しています。



農家と市場アクターの出会いをとりもつお見合いフォーラム

SHEPが実施したお見合いフォーラムで、種苗業者に出会い、こう言われました。「あなた達は農業で大金持ちになれるよ。あなた達に欠けているのは農業技術よりも、タイミングよく栽培をすることさ」と。その時は、SHEPのやり方で本当に成功するかどうか確信は持てなかったのですが、一歩踏み出してみようと思えました。(ケムル 女性農家)



ジェンダー・家計研修

SHEPでは、夫婦を農家経営の1つのユニットとして捉え、生産性向上のために夫婦が協力して農作業や経営に当たることを奨励しています。伝統的なジェンダーの役割の見直しが行われ、家計に関する意思決定を夫婦共同で行ったり、家事や農作業分担を夫婦で話し合っていくなど、目に見える改善が確認されています。この改善により、農家は市場志向型農業、儲かる農業をより一層実現しやすくなりました。



夫婦がお互い納得した上で生産計画を決めるのも「やる気」を引き出す秘訣

SHEPのジェンダー・家計研修を受けてからは、妻が果たす役割を尊重するようになり、家計管理も共に行うようになりました。以前よりも夫婦仲は良くなりましたし、園芸農業からの所得で生活も楽になりました。(キスム東 男性農家)

